

# 医療技術学研究科

視能矯正学専攻

看護学専攻

診療放射線学専攻

臨床検査学専攻

救急救護学専攻

# 目 次

IV-I. 医療技術学研究科全専攻共通	
(1)教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	1
(2)行事予定	2
(3)履修の手引き	3
(4)学位授与	6
(5)博士論文の公表	7
IV-II. 視能矯正学専攻	
(1)教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	9
(2)授業科目一覧・修了要件	10
(3)カリキュラムマップ	12
(4)指導教員一覧	14
IV-III. 看護学専攻	
(1)教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	15
(2)授業科目一覧・修了要件	16
(3)カリキュラムマップ	19
(4)指導教員一覧	21
IV-IV. 診療放射線学専攻	
(1)教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	23
(2)授業科目一覧・修了要件	25
(3)カリキュラムマップ	31
(4)医学物理士認定機構ガイドラインカリキュラム対応表・履修モデル	35
(5)指導教員一覧	37
IV-V. 臨床検査学専攻	
(1)教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	39
(2)授業科目一覧・修了要件	40
(3)カリキュラムマップ	42
(4)指導教員一覧	44
IV-VI. 救急救護学専攻	
(1)教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	45
(2)授業科目一覧・修了要件	46
(3)カリキュラムマップ	47
(4)指導教員一覧	48

## I. 医療技術学研究科全専攻共通

### (1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

#### \*教育目的

医療技術学研究科は、建学の精神に則り、社会の要望にこたえるため、高度先進医療に対応した専門医療職を目指すとともに、教育・研究面で指導的立場で活躍できる人間性豊かな人材の育成を目的とする。

#### \*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

医療技術学研究科は、高い人間性と高度先進医療を担える専門的学識・技能を有し、また教育研究の指導ができる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

1. 各専攻が掲げる高度な専門的知識を有し、その技術を実践することができる。
2. 自ら問題を的確にとらえて解決し、発表することができる。
3. 医療技術の進歩や社会情勢の変化に適応する生涯学習態度および教育指導態度を有する。

#### \*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、医療技術学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 各専攻が掲げる高度な専門的知識を獲得し、その技術を実践できるようにするための科目を編成する。
2. 課題への探求心と解決能力および発表能力を修得するために、指導教員のもとに主体的に研究を遂行し、学位論文を作成・発表する科目を編成する。
3. 医療技術の進歩や社会情勢の変化に適応できる能力および教育指導力を高めるための科目を編成する。

## (2) 2024年度 行事予定

### 【前期】

健康診断	2024年	4月上旬
入学式		4月4日(木)
全体ガイダンス		4月9日(火)
専攻別ガイダンス		4月上旬 ※必要に応じて専攻教員が実施
前期授業開始		4月15日(月)
履修科目申告書提出期限		4月19日(金)
創立記念日		6月29日(土)

### 【後期】

後期授業開始	2024年	10月7日(月)
論文提出最終締切 (修了年次生)	2025年	1月10日(金) 16:45まで ※郵送不可、期日厳守
論文審査 (修了年次生)		1月～2月上旬
修了式・学位記授与式 (修了年次生)		3月第3週頃

※日程は諸事情により変更となる場合がある。

※博士後期課程については研究計画と進捗状況確認のための研究発表(中間発表)を2年次に行う。修士・博士前期課程においても必要に応じて実施する場合がある。

※研究開始前に、研究計画書ならびに倫理委員会からの審査結果通知書の写し、利益相反管理委員会からの審査結果通知書の写しを事務部教務課に提出すること。

※論文提出最終締切日までに、論文審査に必要な書類をすべて揃え、事務部教務課窓口取扱い時間内に提出すること(原則として郵送不可)。特に博士後期課程は申請時にレフェリー制度を備え定期刊行されている学術誌または電子ジャーナルにて公表されている(もしくは公表されることが決定している)必要があるため、早い段階から指導教員と相談し、計画を立てること。

### (3) 履修の手引き

#### 1. 履修

##### [1] 履修登録

- ①履修科目については指導教員と相談のうえ、Campus Squareにて4月第3金曜日までに登録すること。
- ②登録後に履修科目を変更する場合には、指導教員および各授業担当教員の承認を得たうえ、速やかに事務部教務課（大学院係）に報告すること。
- ③登録しない科目については履修できない場合があるので注意すること。
- ④1年間に履修できる単位の上限は、視能矯正学・看護学・診療放射線学・臨床検査学専攻については原則30単位、救急救護学専攻については原則24単位とする。ただし、成績優秀者には上限単位を超えた履修を認めることがある。
- ⑤eラーニングによる倫理教育「eLCoRE」の修了が確認できない場合は、特別研究・特殊研究の履修はできない。

##### [2] 修了要件

###### 【修士・博士前期課程】

###### 全専攻共通

- ①2年以上在学すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば、足りるものとする。
- ②当該専攻の授業科目から必要単位数を修得すること。
- ③必要な研究指導を受けること。
- ④修士論文の審査および試験に合格すること。

###### 【博士後期課程】

###### 全専攻共通

- ①3年以上在学すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば、足りるものとする。なお、博士前期課程の在学期間とあわせ、3年以上在学していなければならない。
- ②当該専攻の授業科目から必要単位数を修得すること。
- ③必要な研究指導を受けること。
- ④博士論文の審査および試験に合格すること。

※いずれの課程も上記②に記載のある「必要単位数」については、各専攻の「(2) 授業科目一覧・修了要件」のページで確認すること。

##### [3] 講義

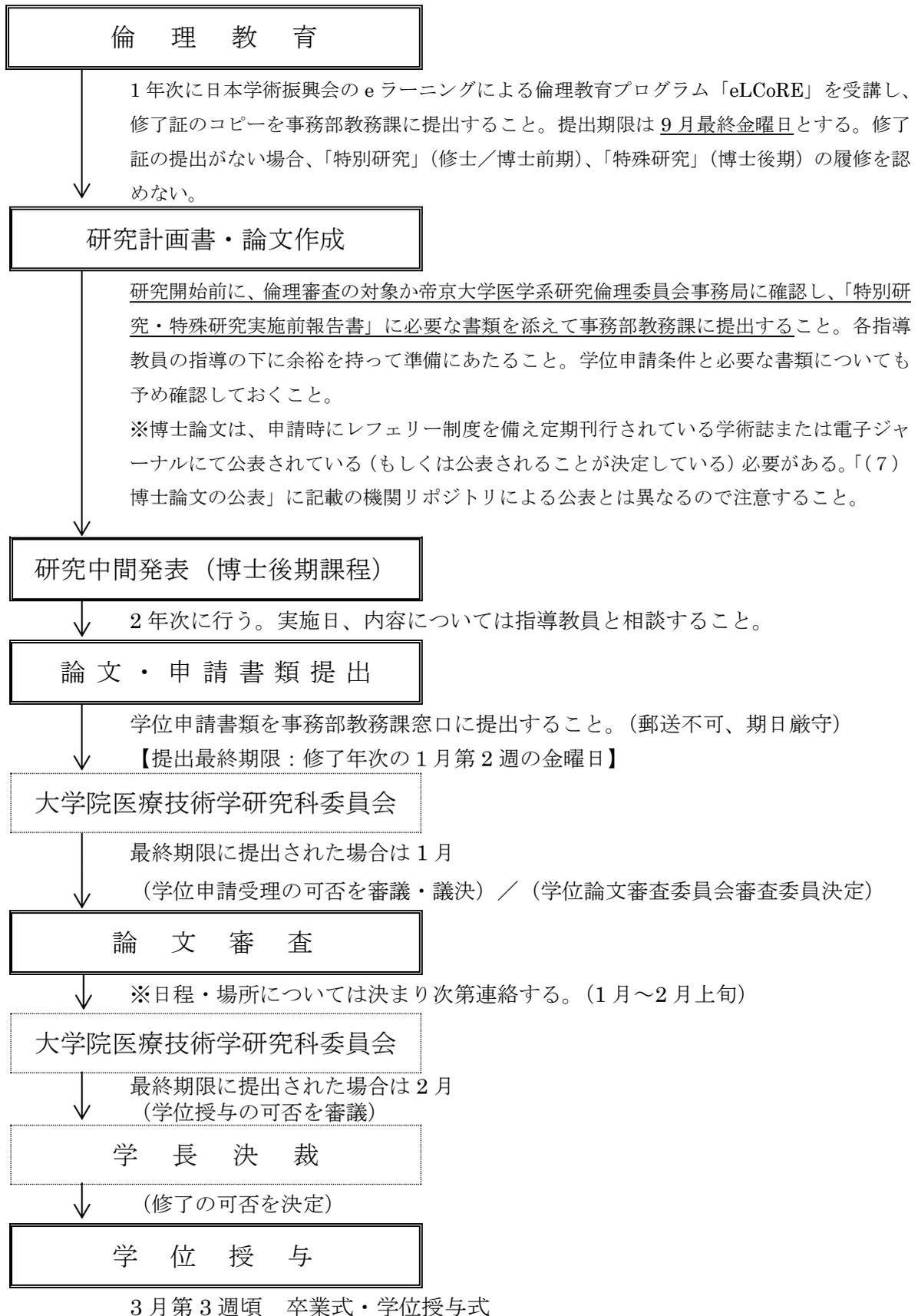
- ①授業時間割表と実際の開講時間に変更となる場合があるので、担当教員に前もって確認しておくこと。
- ②講義を欠席する場合は、担当教員に連絡を入れること。なお、出席が、出席すべき授業時間数の3分の2に満たない場合には、当該科目についての受験資格を失う。

##### [4] 倫理教育について

1年前期にeラーニングによる倫理教育「eLCoRE」を受講し修了すること。修了が確認できない場合「特別研究」（修士・博士前期課程）・「特殊研究」（博士後期課程）の履修は認めない。修了証のコピー提出期限は9月最終金曜日とするが、修士・博士前期課程においては「研究倫理」（診療放射線学専攻は「科学研究・論文技法学」）の成績評価に含むため、提出期限が早まる場合がある。受講についての詳細は後日連絡する。

## (6) 学位授与

### 1. 日程



- ①博士後期課程の場合は論文の研究計画（課題、目的・動機・意義・方法・データ分析方法など）と進捗状況確認のための研究発表（中間発表）を2年次に行う。
- ②学位申請書類を提出するにあたっては、規程および手引きを確認し、不備のないようにすること。
- ③自身の計画した研究が審査対象となるかどうか、帝京大学医学系研究倫理委員会事務局に必ず問い合わせること。その結果に関わらず、問い合わせ内容をもとに「特別研究・特殊研究実施前報告書」を速やかに事務部教務課へ提出すること。

なお、自身の研究が審査対象となった場合は、帝京大学医学系研究倫理委員会事務局の指示に従い申請を行うこと。審査が終了するまでは研究は開始できない。

<帝京大学医学系研究倫理委員会ホームページ>

[https://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/ethic\\_committee/](https://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/ethic_committee/)

## 2. 学位

修了要件を満たしたものに下表の学位を授与する。

専攻	課程の区分	授与学位
視能矯正学専攻	博士前期課程	修士(視能矯正学)
	博士後期課程	博士(視能矯正学)
看護学専攻	博士前期課程	修士(看護学)
	博士後期課程	博士(看護学)
診療放射線学専攻	博士前期課程	修士(診療放射線学)
	博士後期課程	博士(診療放射線学)
臨床検査学専攻	博士前期課程	修士(臨床検査学)
	博士後期課程	博士(臨床検査学)
救急救護学専攻	修士課程	修士(救急救護学)

### (7) 博士論文の公表

※博士論文は、学位申請時点において、レフェリー制度を備え定期刊行されている学術誌または電子ジャーナルにて公表されている（もしくは公表されることが決定している）ことが申請の条件となっている。また、学位授与後に、学位論文全文をインターネット（帝京大学学術機関リポジトリ）の利用により公表することが義務付けられている。ここでは、学位授与後の公表について記載している。

博士論文の公表方法については、学位規則の一部を改正する省令（平成25年文部科学省令第5号）により、2013年4月1日以降に博士の学位を授与されたものは博士論文の全文をインターネットの利用により公表することに変更された。

本研究科においては、「帝京大学学位規程」ならびに「帝京大学大学院医学研究科、薬学

研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科 博士論文公表に関する施行細則」に基づき、博士論文を公表する。博士論文には、課程によらない博士論文（乙博士）も含まれる。

## 1. 公表の方法

「帝京大学学術機関リポジトリ」により公表する。本学の論文等保存・公開システムである機関リポジトリは、国立情報学研究所がメタデータを自動収集しており、そのデータが国立国会図書館にも供給されている。したがって、博士の学位を授与した者については、本学の機関リポジトリを利用することでインターネット上での公表が可能となる。

## 2. 公表までの流れ

- ①学位申請しようとする論文について、学位授与後にインターネットによる博士論文全文公表が可能かを投稿（掲載）先に確認する。公表できないやむを得ない事由は「個人情報保護」、「著作権保護」、「多重公表の禁止」、「特許申請」などが該当する。特に著作権等については必ず掲載先に確認すること。
- ②論文申請時に、学位論文要旨および全文の電子ファイル（PDF）、機関リポジトリ入力フォーム（EXCEL）、「博士論文全文のインターネット公表確認書」を事務部に提出すること。**※公表の可否を問わず、その証拠となる書類の提出が必要となる。公表の可否・条件等について、投稿（掲載）先からの回答がわかるものを添付すること。**
- ③学位を授与された日から 3 ヶ月以内に、学位論文要旨および審査の結果の要旨を公表する。
- ④学位を授与された日から 1 年以内に博士論文全文を公表する。ただし、論文全文を公表できないやむを得ない事由があると医療技術学研究科にて承認された場合は、論文全文に代えて論文要約を公表する。
- ⑤やむを得ない事由がなくなったときは、速やかに博士論文全文を公表する。

## 3. 規程

1. 「帝京大学学位規程」
2. 「帝京大学大学院医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科、博士論文公表に関する施行細則」
3. 「帝京大学大学院医療技術学研究科学位運用規程」
4. 「帝京大学大学院医療技術学研究科学位（修士）論文審査要領」
5. 「帝京大学大学院医療技術学研究科学位（博士）論文審査要領」

### (1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

#### \*教育目的

視能矯正学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、科学的な思考法、観察力、判断力、専門性を備えた眼科検査・視能訓練実践者、研究者、教育者の育成を目的とする。

#### \*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

視能矯正学専攻は、優れた実践者・研究者・教育者として、高度な眼科検査技術を備えた視能訓練士の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

##### 博士前期課程

1. 視能矯正学の基盤となる学識を修得し実践することができる。
2. 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視・弱視治療法に参画できる。
3. 視覚の機序と病態を理解し、次世代教育活動に従事できる。

##### 博士後期課程

1. 視能矯正学の知見を高め、実践することができる。
2. 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視・弱視治療法に参画できる。
3. 視覚の機序と病態を理解し、より高度な教育・研究を推進することができる。

#### \*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、視能矯正学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

##### 博士前期課程

1. 両眼視機能全般について高度な専門知識・技術を修得するため、「両眼視機能診断学」、「両眼視機能治療学」を必修科目として配置する。
2. 個々の研究テーマに関連した高度な専門知識・技術を修得するため、「眼筋機能病理学」、「眼筋機能回復学」、「視覚機能検査学」、「視覚機能訓練学」、「視覚機能病態学Ⅰ・Ⅱ」を選択科目として配置する。
3. 修士論文の作成など教育研究および発表能力を養成するための研究プログラムを行うため、「視能矯正学特別研究」を必修科目として配置する。

##### 博士後期課程

1. 視能矯正学に関する様々な研究テーマに対応するため、「両眼視機能学」、「眼筋機能学」、「視覚機能学」、「視覚機能病態学」に関する科目を選択科目として配置する。
2. 個々の研究テーマについて深く考察し、学位論文の作成に不可欠な教育、研究マインドと発表能力の開発のため「視能矯正学特殊研究」を必修科目として配置する。

## (2) 授業科目一覧

## 視能矯正学専攻【博士前期課程】 2021年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
共通科目	研究倫理	1通	1			○			教授 石川ひろの 准教授 井上まり子 講師 (非) 中澤栄輔	教授 福田吉治 助教 山田卓也 講師 (非) 瀧本禎之
	小計(1科目)	—	1	0	0	—				
専門科目	両眼視機能診断学講義	1通	2			○			教授 白井千恵	
	両眼視機能診断学演習	1通		2			○		教授 白井千恵	
	両眼視機能治療学講義	1通	2			○			教授 松岡久美子	講師 佐々木翔
	両眼視機能治療学演習	1通		2			○		教授 松岡久美子	講師 広田雅和
	眼筋機能病理学講義	1通		2		○			教授 林孝雄	講師 広田雅和
	眼筋機能病理学演習	2通		2			○		教授 林孝雄	講師 広田雅和
	眼筋機能回復学講義	1通		2		○			教授 林孝雄	
	眼筋機能回復学演習	1通		2			○		教授 林孝雄	
	視覚機能検査学講義	1通		2		○			教授 池田結佳 准教授 渡部維	教授(客) 木田淳子 講師 広田雅和
	視覚機能検査学演習	1通		2			○		教授 池田結佳 講師 広田雅和	准教授 渡部維
	視覚機能訓練学講義	1通		2		○			教授 松岡久美子 講師 広田雅和	
	視覚機能訓練学演習	2通		2			○		教授 松岡久美子 講師 広田雅和	
	視覚機能病態学Ⅰ講義	1通		2		○			講師 大鹿京子	講師 広田雅和
	視覚機能病態学Ⅰ演習	2通		2			○		講師 大鹿京子	講師 広田雅和
	視覚機能病態学Ⅱ講義	1通		2		○			教授 三橋俊文	
	視覚機能病態学Ⅱ演習	2通		2			○		教授 三橋俊文	
	視能矯正学特別研究	2通	5				○		教授 林孝雄 教授 白井千恵 教授 池田結佳 講師 大鹿京子 講師 広田雅和 講師 加藤可奈子	教授 松岡久美子 教授 三橋俊文 准教授 金子博行 准教授 渡部維 講師 佐々木翔 講師 中込亮太
小計(16科目)	—	9	28	0	—					
合計(17科目)		—	10	28	0	—				
修了要件及び履修方法										
共通科目から必修科目1単位、専門科目から必修科目9単位および選択科目20単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。										

視能矯正学専攻【博士後期課程】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	両眼視機能学特論	1又は2通		2		○			教授 白井千恵      講師 広田雅和
	眼筋機能学特論	1又は2通		2		○			教授 林孝雄      講師 広田雅和
	視覚機能学特論	1又は2通		2		○			教授 松岡久美子 准教授 渡部維      講師 広田雅和
	視覚機能病態学特論	1又は2通		2		○			教授 三橋俊文      講師 大鹿京子
	視能矯正学特殊研究	2～3通	12				○		教授 林孝雄      教授 松岡久美子 教授 白井千恵      教授 三橋俊文 教授 池田結佳      准教授 金子博行 講師 大鹿京子      准教授 渡部維 講師 広田雅和      講師 佐々木翔 講師 加藤可奈子      講師 中込亮太
	小計(5科目)	—	12	8	0	—			
合計(5科目)		—	12	8	0	—			
<p>修了要件及び履修方法</p> <p>専門科目から視能矯正学特殊研究12単位を含む16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p>									

視能矯正学

(3)カリキュラムマップ

視能矯正学専攻【博士前期課程】

	DP1 視能矯正学の基盤となる学識を修得し実践することができる。	DP2 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視・弱視治療法に参画できる。	DP3 視覚の機序と病態を理解し、次世代教育活動に従事できる。
2年		視覚機能訓練学演習	眼筋機能病理学演習 視覚機能病態学Ⅰ演習 視覚機能病態学Ⅱ演習 ●視能矯正学特別研究
1年	●研究倫理 ●両眼視機能診断学講義 両眼視機能診断学演習 視覚機能検査学講義 視覚機能検査学演習	●両眼視機能治療学講義 両眼視機能治療学演習 眼筋機能回復学講義 眼筋機能回復学演習 視覚機能訓練学講義	眼筋機能病理学講義 視覚機能病態学Ⅰ講義 視覚機能病態学Ⅱ講義

●は必修科目

視能矯正学専攻【博士後期課程】

	DP1 視能矯正学の知見を高め、実践することができる。	DP2 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視・弱視治療法に参画できる。	DP3 視覚の機序と病態を理解し、より高度な教育・研究を推進することができる。
3年			●視能矯正学特殊研究
2年	視覚機能学特論	両眼視機能学特論 眼筋機能学特論	●視能矯正学特殊研究 視覚機能病態学特論
1年	視覚機能学特論	両眼視機能学特論 眼筋機能学特論	両眼視機能学特論 眼筋機能学特論

●は必修科目

(4)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	林 孝 雄	眼振および斜視の病態と治療に関する研究
教授	松岡久美子	視能訓練および視野検査に関する研究
教授	三橋俊文	光学解析に関する研究と眼光学機器の解析
教授	臼井千恵	弱視・斜視の病態と視能訓練に関する研究
教授	池田結佳	読書時の眼球運動に関する研究
准教授	金子博行	外眼疾患および画像診断に関する研究
准教授	渡部 維	弱視発生の分子生物学に関する研究
講師	大鹿京子	生理学と眼科疾患（主に前眼部）の病態と治療に関する研究
講師	佐々木翔	斜視・両眼視機能検査に関する研究
講師	広田雅和	IoTおよび機械学習を用いた視機能評価機器開発に関する研究
講師	中込亮太	コンタクトレンズに関する研究
講師	加藤可奈子	視力・屈折に関する研究

## (1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

## \*教育目的

看護学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、人間の尊厳を基盤として、看護学を創造的・実践的に発展させ、複雑化・高度化する社会環境の中で多様化しているニーズに対応できる、看護分野の高度な専門性を備えた実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

## \*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

看護学専攻は、人間の尊厳を基盤として、看護学を創造的・実践的に発展させ、看護分野の高度な専門性を備えた実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

## 博士前期課程

1. 看護の専門職として主体的に学び、倫理的な判断・行動ができる。
2. 複雑化・高度化する社会環境・医療の中で、多様化するニーズを把握し、看護上の課題を述べるができる。
3. 実践者、管理者、研究者、教育者として必要な、より専門的な知識・技術を説明できる。
4. 看護学や看護実践における課題を選択し、研究を行うことができる。

## 博士後期課程

1. 変化する社会環境・医療の中で、適時に多様性をもってニーズを把握し、看護上の課題を述べるができる。
2. 実践者、管理者、研究者、教育者として高度な看護学の知識を説明できる。
3. 看護学や看護実践に貢献できる独自性のある研究を行うことができる。

## \*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、看護学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

## 博士前期課程

1. 複雑な健康問題を有する対象のフィジカルアセスメントの能力、高度な倫理的判断・調整能力、看護実践・教育を行う上で必要な教育的・管理能力を育成するため、共通科目群を配置する。
2. 個々の研究テーマに関連した高度な専門的知識・技術を修得するため、各看護学領域の専門科目群を配置する。
3. 看護学の理論や研究方法を専門的に学び、個々の研究テーマに従い、一連の研究プロセスを体験し、教育・研究・理論開発するための初歩の能力を育成するため、各看護学領域の「特別研究」を配置する。

## 博士後期課程

個々の研究テーマに従い、自立して研究・理論開発するための能力を育成するため、各看護学領域に特論と特殊研究を配置する。

## (2) 授業科目一覧

## 看護学専攻【博士前期課程】 2021年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				授業形態			担当教員	
			必修	必修 選択	選択 自由	自由	講義	演習	実験・ 実習		
共通科目	研究倫理	1前	1				○			教授 石川ひろの 教授 福田吉治 准教授 井上まり子 助教 山田卓也 講師 (非) 中澤栄輔 講師 (非) 瀧本慎之	
	看護教育論	1後			2		○			教授 砂見緩子	
	看護管理論	1後			2		○			教授 砂見緩子	
	看護理論	1前			2		○			准教授 寺岡征太郎	
	看護研究	1前	2					○		教授 南川雅子 教授 林さとみ	
	コンサルテーション論	1後			2		○			准教授 石見和世	
	看護倫理	1前	1				○			教授 稲垣順子	
	看護政策論	1前			2		○			教授 山崎恭子	
	保健統計	1前	2				○			教授 宮田敏	
	フィジカルアセスメント	1通			2		○			教授 林さとみ	
	病態生理	1後			2		○			教授 関順彦 教授 渡邊清高 講師 市川靖子 講師 本田健 助教 丹澤盛	
	臨床薬理学	1前			2		○			教授 青山晃治	
	小計 (12科目)	—	—	6	0	16	0	—	—	—	
専門科目	基礎看護学	基礎看護学特講 I	1前		2			○			教授 新井直子 教授 砂見緩子
		基礎看護学特講 II	1後		2			○			教授 新井直子 教授 砂見緩子
		基礎看護学演習	1通		4				○		教授 新井直子 教授 砂見緩子
		基礎看護学特別研究	2通		10				○		教授 新井直子 教授 砂見緩子
	成人看護学	成人看護学特講 I	1前		2			○			教授 南川雅子 教授 林さとみ
		成人看護学特講 II	1後		2			○			教授 南川雅子 教授 林さとみ
		成人看護学演習	1通		4				○		教授 南川雅子 教授 林さとみ 准教授 瀧田結香 准教授 古屋洋子 講師 星野晴彦
		成人看護学特別研究	2通		10				○		教授 南川雅子 教授 林さとみ 准教授 瀧田結香 准教授 古屋洋子 講師 星野晴彦
	ヘルプ ス・ロ ダク ライ ツ 看 ブ	母性看護学特講 I	1前		2			○			教授 梶原祥子
		母性看護学特講 II	1後		2			○			教授 梶原祥子
		母性看護学演習	1通		4				○		教授 梶原祥子
		母性看護学特別研究	2通		10				○		教授 梶原祥子
	小児 看護 学	小児看護学特講 I	1前		2			○			教授 三木祐子
		小児看護学特講 II	1後		2			○			教授 三木祐子
		小児看護学演習	1通		4				○		教授 三木祐子 准教授 石見和世
		小児看護学特別研究	2通		10				○		教授 三木祐子 准教授 石見和世
	精神 看護 学	精神看護学特講 I	1前		2			○			教授 寺岡征太郎
		精神看護学特講 II	1後		2			○			教授 寺岡征太郎
		精神看護学演習	1通		4				○		教授 寺岡征太郎
		精神看護学特別研究	2通		10				○		教授 寺岡征太郎 講師 伊藤文子 講師 大河内敦子
地域 看護 学・公 衆衛 生	地域・公衆衛生看護学特講 I	1前		2			○			教授 山崎恭子	
	地域・公衆衛生看護学特講 II	1後		2			○			教授 山崎恭子	
	地域・公衆衛生看護学演習	1通		4				○		教授 山崎恭子	
	地域・公衆衛生看護学特別研究	2通		10				○		教授 山崎恭子 講師 江口優子	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				授業形態			担当教員
			必修	選択必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	高齢者看護学	高齢者看護学特講Ⅰ	1前		2			○		教授 鈴木久美子
		高齢者看護学特講Ⅱ	1後		2			○		教授 鈴木久美子
		高齢者看護学演習	1通		4				○	教授 鈴木久美子
		高齢者看護学特別研究	2通		10				○	教授 鈴木久美子 准教授 黒白恵子
	がん看護学	がん看護学特講Ⅰ	1前			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学特講Ⅱ	1前			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学特講Ⅲ	1前			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅰ	1又は2通			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅱ	1又は2通			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅲ	1又は2通			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅳ	1又は2通			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学演習Ⅴ	1又は2通			2			○	教授 南川雅子
		がん看護学実習Ⅰ	2前			5				○ 教授 南川雅子
		がん看護学実習Ⅱ	2通			2				○ 教授 南川雅子
がん看護学実習Ⅲ	2通			3				○ 教授 南川雅子		
小計 (39科目)		—	0	126	26	0	—			
合計 (51科目)		—	6	126	42	0	—			

修了要件及び履修方法

共通科目から必修6単位および選択4単位以上を修得し、専門科目の主分野から特講4単位、演習4単位、特別研究10単位、主分野以外の特講科目またはがん看護学（特講・演習・実習）から2単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。

なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部看護学科講義の聴講を指示することがある。

看護学専攻【博士後期課程】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	必修 選択	自由	講義	演習	実験・ 実習	
専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論Ⅰ	1前		2		○		教授 新井直子 教授 砂見緩子
		基礎看護学特論Ⅱ	1後		2		○		教授 新井直子 教授 砂見緩子
		基礎看護学特殊研究	2～3通		10			○	教授 新井直子 教授 砂見緩子
	成人看護学	成人看護学特論Ⅰ	1前		2		○		教授 南川雅子 教授 林さとみ
		成人看護学特論Ⅱ	1後		2		○		教授 南川雅子 准教授 瀧田結香 教授 林さとみ 准教授 古屋洋子 講師 星野晴彦
		成人看護学特殊研究	2～3通		10			○	教授 南川雅子 准教授 瀧田結香 教授 林さとみ 准教授 古屋洋子 講師 星野晴彦
	ス テ ィ ブ ・ ラ イ フ ・ ヘ ル ス ・ ク ・ シ ョ ウ ・ ケ ツ ・ シ ョ ウ ・ ク ・ シ ョ ウ ・ ク	母性看護学特論Ⅰ	1前		2		○		教授 梶原祥子
		母性看護学特論Ⅱ	1後		2		○		教授 梶原祥子
		母性看護学特殊研究	2～3通		10			○	教授 梶原祥子
	小 児 看 護 学	小児看護学特論Ⅰ	1前		2		○		教授 三木祐子
		小児看護学特論Ⅱ	1後		2		○		教授 三木祐子
		小児看護学特殊研究	2～3通		10			○	教授 三木祐子 准教授 石見和世
	精 神 看 護 学	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		○		教授 寺岡征太郎
		精神看護学特論Ⅱ	1後		2		○		教授 寺岡征太郎
		精神看護学特殊研究	2～3通		10			○	教授 寺岡征太郎 講師 伊藤文子 講師 大河内敦子
	地 域 ・ 公 衆 衛 生 看 護 学	地域・公衆衛生看護学特論Ⅰ	1前		2		○		教授 山崎恭子
		地域・公衆衛生看護学特論Ⅱ	1後		2		○		教授 山崎恭子
		地域・公衆衛生看護学特殊研究	2～3通		10			○	教授 山崎恭子 講師 江口優子
	高 齢 者 看 護 学	高齢者看護学特論Ⅰ	1前		2		○		教授 鈴木久美子
		高齢者看護学特論Ⅱ	1後		2		○		教授 鈴木久美子
		高齢者看護学特殊研究	2～3通		10			○	教授 鈴木久美子 准教授 黒白恵子
	小計 (21科目)	—	0	98	0				
	合計 (21科目)	—	0	98	0		—		

修了要件及び履修方法

専門科目の主分野から特論4単位および特殊研究10単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。

なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部看護学科あるいは、医療技術学研究科看護学専攻博士前期課程講義の聴講を指示することがある。

(3)カリキュラムマップ

看護学専攻【博士前期課程】

	DP1 看護の専門職として主体的に 学び、倫理的な判断・行動が できる。	DP2 複雑化・高度化する社会環境・医 療の中で、多様化するニーズを把 握し、看護上の課題を述べるこ とができる。	DP3 実践者、管理者、研究者、教 育者として必要な、より専門 的な知識・技術を説明でき る。	DP4 看護学や看護実践における課題 を選択し、研究を行うことがで きる。
2年		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆がん看護学演習Ⅰ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅱ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅲ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅳ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅴ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん看護学実習Ⅰ</li> <li>がん看護学実習Ⅱ</li> <li>がん看護学実習Ⅲ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅱ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅲ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅳ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅴ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎看護学特別研究</li> <li>成人看護学特別研究</li> <li>母性看護学特別研究</li> <li>小児看護学特別研究</li> <li>精神看護学特別研究</li> <li>地域・公衆衛生看護学特別研究</li> <li>高齢者看護学特別研究</li> <li>がん看護学実習Ⅲ</li> </ul>
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護教育論</li> <li>看護管理論</li> <li>●看護倫理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●看護研究</li> <li>コンサルテーション論</li> <li>看護政策論</li> <li>●保健統計</li> <li>フィジカルアセスメント</li> <li>病態生理</li> <li>臨床薬理学</li> <li>基礎看護学特講Ⅰ</li> <li>基礎看護学特講Ⅱ</li> <li>成人看護学特講Ⅰ</li> <li>成人看護学特講Ⅱ</li> <li>母性看護学特講Ⅰ</li> <li>母性看護学特講Ⅱ</li> <li>小児看護学特講Ⅰ</li> <li>小児看護学特講Ⅱ</li> <li>精神看護学特講Ⅰ</li> <li>精神看護学特講Ⅱ</li> <li>地域・公衆衛生看護学特講Ⅰ</li> <li>地域・公衆衛生看護学特講Ⅱ</li> <li>高齢者看護学特講Ⅰ</li> <li>高齢者看護学特講Ⅱ</li> <li>がん看護学特講Ⅰ</li> <li>がん看護学特講Ⅱ</li> <li>がん看護学特講Ⅲ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅰ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅱ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅲ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅳ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅴ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究倫理</li> <li>看護教育論</li> <li>看護管理論</li> <li>看護理論</li> <li>●看護研究</li> <li>コンサルテーション論</li> <li>基礎看護学演習</li> <li>成人看護学演習</li> <li>母性看護学演習</li> <li>小児看護学演習</li> <li>精神看護学演習</li> <li>地域・公衆衛生看護学演習</li> <li>高齢者看護学演習</li> <li>◆がん看護学演習Ⅱ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅲ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅳ</li> <li>◆がん看護学演習Ⅴ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究倫理</li> <li>●看護研究</li> </ul>

●は必修科目、◆は1年または2年で履修

看護学専攻【博士後期課程】

	DP 1 変化する社会環境・医療の中で、 適時に多様性をもってニーズを把握し、 看護上の課題を述べる ことができる。	DP 2 実践者、管理者、研究者、教育者 として高度な看護学の知識を説明 できる。	DP 3 看護学や看護実践に貢献できる独 自性のある研究を行うことができ る。
3年			基礎看護学特殊研究 成人看護学特殊研究 母性看護学特殊研究 小児看護学特殊研究 精神看護学特殊研究 地域・公衆衛生看護学特殊研究 高齢者看護学特殊研究
2年			基礎看護学特殊研究 成人看護学特殊研究 母性看護学特殊研究 小児看護学特殊研究 精神看護学特殊研究 地域・公衆衛生看護学特殊研究 高齢者看護学特殊研究
1年	基礎看護学特論 I 成人看護学特論 I 母性看護学特論 I 小児看護学特論 I 精神看護学特論 I 地域・公衆衛生看護学特論 I 高齢者看護学特論 I	基礎看護学特論 II 成人看護学特論 II 母性看護学特論 II 小児看護学特論 II 精神看護学特論 II 地域・公衆衛生看護学特論 II 高齢者看護学特論 II	

## (4)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	梶原祥子	女性のライフサイクルにおける健康支援に関する研究 妊娠期、分娩期、育児期にある女性の健康支援に関する研究
教授	南川雅子	がんサバイバーと家族の支援に関する研究
教授	山崎恭子	働く人々を対象に就労の継続に焦点をあてた地域・職域におけるサポートに関する研究（母子、がん患者、精神疾患、退職者、介護者など）
教授	林さとみ	循環器疾患リスクのある個人・集団、循環器疾患患者・家族の、疾患発症・悪化リスクに対する認識と行動変容に係る要因の探究、概念化疾患・身体損傷がもたらす身体的、心理的、社会的、政治的脆弱性とその看護
教授	新井直子	創傷（特に褥瘡）の発生・治癒プロセスに関する研究 創傷のアセスメントとケアに関する研究
教授	砂見緩子	看護職を対象とした職場へのトランジション、職場適応に関する研究
教授	鈴木久美子	認知症高齢者の在宅および施設ケアに関する研究 家族介護者支援に関する研究 地域包括ケアシステムに関する研究
教授	寺岡征太郎	精神科高度看護実践に関する研究 地域精神保健看護活動に関する研究 リエゾン精神看護活動に関する研究 自殺予防ケアに関する研究
教授	三木祐子	健康問題を有する子どもの支援に関する研究 居住環境と子どもの健康に関する研究
准教授	古屋洋子	がん患者の療養生活支援に関する研究
准教授	石見和世	子どもの病気の理解、子どもへの説明に関する研究（子どもの権利、プレパレーション含む） 慢性期にある子どもと家族の療養行動に関する研究（成人移行期支援含む） 疾患に伴うジェンダー・アイデンティティに関する研究
准教授	黒白恵子	認知症ケアに関する研究 老年看護教育の実践、効果に関する研究 アクティビティケアに関する研究
准教授	瀧田結香	循環器疾患患者のQOL、精神状態、セルフマネジメントに関する研究 身体疾患を抱える患者に対するマインドフルネスに関する研究
講師	伊藤文子	地域で生活する長期入院経験を有する統合失調症の人びとを対象としたライフストーリーに関する研究
講師	大河内敦子	看護系大学における精神看護学若手教員の教育活動に関する研究
講師	星野晴彦	クリティカルケア看護に関する研究 重症患者の痛み、鎮静、せん妄に関する研究
講師	江口優子	退院支援に関する研究 地域包括ケアにおける看護職の活動に関する研究 漢方医学を手がかりとした看護実践に関する研究



### (1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

#### \*教育目的

診療放射線学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、診療放射線学の高度な知識、先進医療技術を有し、病態の診断、治療に携わることができる実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

#### \*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

診療放射線学専攻は、豊かな学識を基盤に、より高度な医療技術を修得し、診療放射線学領域における独創的な学術研究を行える優れた研究者、教育者としての人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

##### 博士前期課程 診療放射線コース

1. 専門的医療の実践や研究を行うための基盤となる豊かな学識を修得し実践することができる。
2. 診療放射線学領域において、日々進歩する医療機器および医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を修得し実践することができる。
3. 診療放射線学のみならず、広く学際領域の学術研究成果を理解、統合することにより、先進的な医療技術の研究開発ができる。

##### 博士前期課程 医学物理士コース

1. 医学物理士に必要な医学物理学および放射線治療に関する専門的知識を修得し実践することができる。
2. 医学物理領域において、日々進歩する医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を修得し実践することができる。
3. 放射線治療技術に関連する理論と方法論について、先進的な医療技術の研究開発ができる。

##### 博士後期課程 診療放射線コース

1. 診療放射線学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。
2. 理論の妥当性の科学的検証、診療放射線学に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。
3. 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを発揮することができる。

##### 博士後期課程 医学物理士コース

1. 医学物理学および放射線治療学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。
2. 放射線治療分野に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。
3. 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを発揮することができる。

## \*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、診療放射線学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

### 博士前期課程 診療放射線コース

1. 共通科目では、研究を实践する上で基礎となる原著論文の読解や情報を的確に分析する能力を養うため、「科学研究・論文技法学」、「放射線科学特論」、「医用画像基礎読影学」を必修科目として配置する。さらに、国際化への対応を目的とし、「科学英語特論」を必修科目として配置する。
2. 専門科目では、それぞれの専門分野に対応して特化した知識を深めるために、「診療画像技術学特論」、「救急撮影技術学特論」、「環境放射線科学Ⅰ」等の選択科目を配置する。
3. 専門実習科目では、医師のもとで読影の基礎を修得し、また高度専門医療施設等の臨床実習を通して先進医療技術を修得し、診療放射線学の医学応用について柔軟な適応能力と実践能力を養うため、「診療画像技術学臨床実習」、「核医学検査技術学臨床実習」、「放射線治療技術学臨床実習」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
4. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「診療放射線学特別研究」を配置する。

### 博士前期課程 医学物理士コース

1. 共通科目では、研究を实践する上で基礎となる原著論文の読解や情報を的確に分析する能力を養うため、「科学研究・論文技法学」、「放射線科学特論」、「医用画像基礎読影学」を必修科目として配置する。さらに、国際化への対応を目的とし、「科学英語特論」を必修科目として配置する。
2. 専門科目では、医学物理士に対応して特化した知識を深めるために、「統計科学」、「力学特論」、「量子力学特論」、「放射線物理学特論」等の選択科目を配置する。
3. 専門実習科目では、医師のもとで読影の基礎を修得し、また高度専門医療施設等の臨床実習を通して先進医療技術を修得し、柔軟な適応能力と実践能力を養うため、「診療画像技術学臨床実習」、「核医学検査技術学臨床実習」、「放射線治療技術学臨床実習」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
4. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「医学物理特別研究」を配置する。

### 博士後期課程 診療放射線コース

1. 数多くの臨床画像に触れることにより、更に高度な読影能力を養うため、「医用画像読影学」を必修科目として配置する。
2. 専門職として臨床に即応できるため、「診療画像技術学臨床実習」、「放射線治療学臨床実習Ⅰ」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
3. 研究論文の作成を通して、学術交流、教育・研究活動に貢献できる能力や先進的な医療技術を開発できる能力を養うため、「診療放射線学特殊研究」を必修科目として配置する。

### 博士後期課程 医学物理士コース

1. 数多くの臨床画像に触れることにより、更に高度な読影能力を養うため、「医用画像読影学」を必修科目として配置する。
2. 医学物理士として臨床に即応できるため、「放射線治療学臨床実習Ⅰ」「放射線治療学臨床実習Ⅱ」を選択科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
3. 研究論文の作成を通して、学術交流、教育・研究活動に貢献できる能力や先進的な医療技術を開発できる能力を養うため、「医学物理特殊研究」を必修科目として配置する。

## (2)授業科目一覽

## 診療放射線学専攻【博士前期課程】 診療放射線コース 2020年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
共通科目	科学研究・論文技法学	1前	2			○			教授 石川ひろの 助教 山田卓也 講師 (非) 中澤栄輔 教授 大谷浩樹 教授 富田博信 准教授 小島慎也 講師 横塚記代 教授 福田吉治 講師 (非) 瀧本禎之 教授 古徳純一 教授 齋藤祐樹 講師 林達也 講師 伊東利宗
	放射線科学特論	1前	2			○			教授 大谷浩樹 講師 横塚記代 教授 富田博信
	科学英語特論	1前	2			○			教授 岡本孝英 教授 富田博信 講師 林達也 教授 大谷浩樹 講師 横塚記代 教授(客) 井谷善恵
	医用画像基礎読影学	1後	2			○			教授 岡本孝英 准教授 太田樹 教授 神長達郎 講師 横塚記代
	医用画像情報学特論 I	1前		2		○			教授 岡本孝英
	医用機器品質管理学	1後		2		○			教授 大谷浩樹 教授 富田博信 教授 岡本孝英 教授 齋藤祐樹
	放射線技術学特論 (治療)	2前		2		○			教授 大谷浩樹 教授 古徳純一
	放射線技術学特論 (核医学 I)	2前		2		○			講師 横塚記代 教授 大谷浩樹 教授 古徳純一 講師 伊東利宗
	放射線技術学特論 (核医学 II)	2後		2		○			講師 伊東利宗 教授 大谷浩樹 講師 横塚記代 教授 古徳純一
	小計 (9科目)	—	8	10	0		—		
専門科目	統計科学	2前		1		○			教授 古徳純一
	物理数学	1後		1		○			教授 古徳純一
	数値計算	1前		2		○			教授 古徳純一
	力学特論	1前		2		○			教授 大谷浩樹
	量子力学特論	1後		2		○			教授 大谷浩樹
	熱力学・統計力学	1後		2		○			教授 大谷浩樹
	放射線物理学特論	1後		2		○			教授 齋藤祐樹
	電磁気学	1前		2		○			教授 齋藤祐樹
	医用画像情報学特論 II	2前		2		○			教授 岡本孝英 教授 齋藤祐樹 講師 横塚記代 教授 富田博信 准教授 小島慎也 講師 林達也
	医用画像情報工学特論	1後		2		○			教授 富田博信 准教授 小島慎也
	核化学特論	1後		2		○			講師 横塚記代 講師 伊東利宗
	医用画像処理学特論	1後		2		○			教授 岡本孝英 講師 林達也
	環境放射線科学 I	1後		2		○			教授 大谷浩樹 教授 齋藤祐樹 教授 岡本孝英
	診療画像技術学特論	2前		2		○			教授 岡本孝英 講師 林達也 講師 (非) 内山喜代志 教授 富田博信 講師 横塚記代
	救急撮影技術学特論	2前		2		○			教授 岡本孝英 准教授 小島慎也 教授 富田博信 講師 (非) 内山喜代志
	診療放射線学特別研究	1後~2通	8				○		教授 岡本孝英 教授 富田博信 教授 神長達郎 准教授 小島慎也 講師 横塚記代 教授 大谷浩樹 教授 齋藤祐樹 准教授 太田樹 講師 林達也 講師 伊東利宗
小計 (16科目)	—	8	28	0		—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・ 実習	
専門 実習 科目	臨床実習 診療画像技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 教授 富田博信 准教授 小島慎也 講師 林達也
	核医学検査技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 講師 横塚記代 講師 伊東利宗
	放射線治療技術学臨床実習	1通		2				○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			
	先端医療 臨床実習	先端医療施設臨床実習	2前			8			○
	小計 (1科目)	—	0	0	8	—			
合計 (29科目)		—	16	44	8	—			

修了要件及び履修方法

診療放射線学特別研究を含む必修科目16単位並びに選択科目14単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。  
 なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部診療放射線学科講義の聴講を指示することがある。

診療放射線学専攻【博士前期課程】 医学物理士コース 2020年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・	
	科学研究・論文技法学	1前	2			○		教授 石川ひろの 助教 山田卓也 講師 (非) 中澤栄輔 教授 大谷浩樹 教授 富田博信 准教授 小島慎也 講師 横塚記代	教授 福田吉治 講師 (非) 瀧本禎之 教授 古徳純一 教授 齋藤祐樹 講師 林達也 講師 伊東利宗
	放射線科学特論	1前	2			○		教授 大谷浩樹 講師 横塚記代	教授 富田博信
	科学英語特論	1前	2			○		教授 岡本孝英 教授 富田博信 講師 林達也	教授 大谷浩樹 講師 横塚記代 教授(客) 井谷善恵
	医用画像基礎読影学	1後	2			○		教授 岡本孝英 准教授 太田樹	教授 神長達郎 講師 横塚記代
	医用画像情報学特論 I	1前		2		○		教授 岡本孝英	
	医用機器品質管理学	1後		2		○		教授 大谷浩樹 教授 富田博信	教授 岡本孝英 教授 齋藤祐樹
	放射線技術学特論 (治療)	2前		2		○		教授 大谷浩樹	教授 古徳純一
	放射線技術学特論 (核医学 I)	2前		2		○		講師 横塚記代 教授 古徳純一	講師 伊東利宗
	放射線技術学特論 (核医学 II)	2後		2		○		講師 伊東利宗 教授 古徳純一	講師 横塚記代
小計 (8科目)	—	6	10	0	—	—			
専門科目	統計科学	2前		1		○		教授 古徳純一	
	物理数学	1後		1		○		教授 古徳純一	
	数値計算	1前		2		○		教授 古徳純一	
	力学特論	1前		2		○		教授 大谷浩樹	
	量子力学特論	1後		2		○		教授 大谷浩樹	
	熱力学・統計力学	1後		2		○		教授 大谷浩樹	
	放射線物理学特論	1後		2		○		教授 齋藤祐樹	
	電磁気学	1前		2		○		教授 齋藤祐樹	
	医用画像情報学特論 II	2前		2		○		教授 岡本孝英 教授 齋藤祐樹 講師 横塚記代	教授 富田博信 准教授 小島慎也 講師 林達也
	解剖学特論	1前		1		○		准教授 太田樹	教授 大谷浩樹
	生理学特論	1後		1		○		准教授 太田樹	教授 大谷浩樹
	放射線腫瘍学	1後		2		○		准教授 太田樹	教授 大谷浩樹
	放射線計測学特論	1後		2		○		教授 大谷浩樹	
	原子核物理学	1後		2		○		教授 大谷浩樹	
	医学物理特別研究	1後～2通	8				○	教授 古徳純一	教授 大谷浩樹
小計 (15科目)	—	8	24	0	—	—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・ 実習	
専門 実習科目	臨床 実習	診療画像技術学臨床実習	1通		2			○	教授 岡本孝英 教授 富田博信 准教授 小島慎也 講師 林達也
		核医学検査技術学臨床実習	1通		2			○	教授 岡本孝英 講師 横塚記代 講師 伊東利宗
		放射線治療技術学臨床実習	1通		2			○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹
		医学物理総合実習	1通		2			○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹 教授 古徳純一 講師 横塚記代 講師 林達也
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			
	先端医療 臨床 実習	先端医療施設臨床実習	2前			8			○
小計（1科目）		—	0	0	8	—			
合計（29科目）		—	16	42	8	—			

#### 修了要件及び履修方法

医学物理特別研究を含む必修科目16単位並びに選択科目18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。ただし、医学物理士認定機構が認定する「医学物理教育コース」の修了者と認められるのは、医学物理士認定機構ガイドラインによるカリキュラムの必修80%以上の充足度を満たした場合に限る。  
なお、教員が指導上必要と判断した場合は、医療技術学部診療放射線学科講義の聴講を指示することがある。

診療放射線学専攻【博士後期課程】 診療放射線コース 2018年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	医療管理・経営学	1前		2		○			教授 岡本孝英 准教授 小島慎也
	医用画像読影学	1後	2			○			教授 岡本孝英 准教授 太田樹 教授 神長達郎 講師 伊東利宗
	環境放射線科学Ⅱ	2後		2		○			教授 大谷浩樹 教授 齋藤祐樹
	小計 (3科目)	—	2	4	0	—			
	診療放射線学特殊研究	1～3通	12					○	教授 岡本孝英 教授 齋藤祐樹 講師 横塚記代 講師 伊東利宗 教授 富田博信 准教授 小島慎也 講師 林達也
	小計 (1科目)	—	12	0	0	—			
専門実習科目	臨床実習 診療画像技術学臨床実習	1・2・3のいずれか か通年		4				○	教授 岡本孝英 講師 横塚記代 教授 富田博信 講師 林達也
	放射線治療学臨床実習Ⅰ	1・2・3のいずれか か通年		4				○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹
	小計 (2科目)	—	0	8	0	—			
	先端医療施設臨床実習	1～3通			8			○	教授 岡本孝英 教授 古徳純一 教授 大谷浩樹 教授 富田博信
	小計 (1科目)	—	0	0	8	—			
合計 (7科目)		—	14	12	8	—			
<p>修了要件及び履修方法</p> <p>診療放射線学特殊研究を含む必修科目14単位並びに選択科目2単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p>									

診療放射線学専攻【博士後期課程】 医学物理士コース 2017年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	医療管理・経営学	1前		2		○			教授 岡本孝英 准教授 小島慎也
	医用画像読影学	1後	2			○			教授 岡本孝英 准教授 太田樹 講師 伊東利宗
	環境放射線科学Ⅱ	2後		2		○			教授 大谷浩樹 教授 岡本孝英 教授 齋藤祐樹
	小計 (3科目)	—	2	4	0	—			
	医学物理特殊研究	1～3通	12				○		教授 古徳純一 教授 大谷浩樹
	小計 (1科目)	—	12	0	0	—			
専門実習科目	臨床実習								
	放射線治療学臨床実習Ⅰ	1通		4				○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹
	放射線治療学臨床実習Ⅱ	2～3通		4				○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹
	小計 (2科目)	—	0	8	0	—			
	先端実習科目								
先端医療施設臨床実習	1～3通			8			○	教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹 教授 古徳純一 教授 富田博信	
小計 (1科目)	—	0	0	8	—				
合計 (7科目)		—	14	12	8	—			
<p>修了要件及び履修方法</p> <p>医学物理特殊研究を含む必修科目14単位並びに選択科目2単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p>									

(3)カリキュラムマップ

診療放射線学専攻【博士前期課程 診療放射線コース】

	DP1 専門的医療の実践や研究を行うための基盤となる豊かな学識を修得し実践することができる。	DP2 診療放射線学領域において、日々進歩する医療機器および医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を修得し実践することができる。	DP3 診療放射線学のみならず、広く学際領域の学術研究成果を理解、統合することにより、先進的な医療技術の研究開発ができる。
2年	統計科学	診療画像技術学特論 放射線技術学特論（治療） 放射線技術学特論（核医学Ⅰ） 放射線技術学特論（核医学Ⅱ） 医用画像情報学特論Ⅱ 救急撮影技術学特論	先端医療施設臨床実習 ●診療放射線学特別研究
1年	●科学研究・論文技法学 ●放射線科学特論 ●医用画像基礎読影学 物理数学 数値計算 力学特論 量子力学特論 熱力学・統計力学 放射線物理学特論 電磁気学 核化学特論	医用画像情報学特論Ⅰ 医用画像情報工学特論 医用画像処理学特論 環境放射線科学Ⅰ 診療画像技術学臨床実習 核医学検査技術学臨床実習 放射線治療技術学臨床実習	医用機器品質管理学 ●科学英語特論 ●診療放射線学特別研究

●は必修科目

診療放射線学専攻【博士前期課程 医学物理士コース】

	DP1 医学物理士に必要な医学物理学および放射線治療に関する専門的知識を修得し実践することができる。	DP2 医学物理領域において、日々進歩する医療技術について広く専門的に理解し、より高度な医療技術を修得し実践することができる。	DP3 放射線治療技術に関連する理論と方法論について、先進的な医療技術の研究開発ができる。
2年	統計科学	放射線技術学特論（治療） 放射線技術学特論（核医学Ⅰ） 放射線技術学特論（核医学Ⅱ） 医用画像情報学特論Ⅱ	先端医療施設臨床実習 ●医学物理特別研究
1年	●科学研究・論文技法学 ●放射線科学特論 ●医用画像基礎読影学 物理数学 数値計算 力学特論 量子力学特論 熱力学・統計力学 放射線物理学特論 電磁気学 解剖学特論 生理学特論 放射線計測学特論 原子核物理学	医用画像情報学特論Ⅰ 放射線腫瘍学 診療画像技術学臨床実習 核医学検査技術学臨床実習 放射線治療技術学臨床実習 医学物理総合実習	医用機器品質管理学 ●科学英語特論 ●医学物理特別研究

●は必修科目

診療放射線学専攻【博士後期課程 診療放射線コース】

	DP1 診療放射線学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。	DP2 理論の妥当性の科学的検証、診療放射線学に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。	DP3 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを発揮することができる。
3年		診療画像技術学臨床実習 先端医療施設臨床実習 放射線治療学臨床実習 I	●診療放射線学特殊研究
2年	環境放射線科学 II	診療画像技術学臨床実習 先端医療施設臨床実習 放射線治療学臨床実習 I	●診療放射線学特殊研究
1年	●医用画像読影学	診療画像技術学臨床実習 先端医療施設臨床実習 放射線治療学臨床実習 I	医療管理・経営学 ●診療放射線学特殊研究

●は必修科目

診療放射線学専攻【博士後期課程 医学物理士コース】

	DP1 医学物理学および放射線治療学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、および先進的な研究を推進できる。	DP2 放射線治療分野に要求される根拠に基づいた、医療技術の実践と教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。	DP3 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを発揮することができる。
3年		放射線治療学臨床実習Ⅱ 先端医療施設臨床実習	●医学物理特殊研究
2年	環境放射線科学Ⅱ	放射線治療学臨床実習Ⅱ 先端医療施設臨床実習	●医学物理特殊研究
1年	●医用画像読影学	放射線治療学臨床実習Ⅰ 先端医療施設臨床実習	医療管理・経営学 ●医学物理特殊研究

●は必修科目

(4)医学物理士認定機構ガイドラインカリキュラム対応表

本学のカリキュラム				認定機構講義カリキュラム		
科目名	コース	必修	単位	科目名	必修	最小単位
科学研究・論文技法学	共通	必修	2	—	—	—
放射線科学特論	共通	必修	2	放射線生物学	必修	1
				放射線関連法規および勧告／医療倫理	必修	1
科学英語特論	共通	必修	2	科学英語	選択	1
医用画像基礎読影学	共通	必修	2	放射線診断学	必修	1
医用画像情報学特論Ⅰ	共通	選択	2	放射線診断物理学Ⅰ	必修	1
				医療・画像情報学	必修	1
医用機器品質管理学	共通	選択	2	保健物理学／放射線防護学Ⅰ	必修	1
				保健物理学／放射線防護学Ⅱ	選択	1
放射線技術学特論(治療)	共通	選択	2	放射線治療物理学Ⅰ	必修	1
				放射線治療物理学Ⅱ	選択	1
放射線技術学特論(核医学Ⅰ)	共通	選択	2	核医学物理学Ⅰ	必修	1
				核医学物理学Ⅱ	選択	1
放射線技術学特論(核医学Ⅱ)	共通	選択	2	核医学	必修	1
統計科学	共通	選択	1	統計学	必修	1
物理数学	共通	選択	1	物理数学	選択	1
数値計算	共通	選択	2	—	—	—
力学特論	共通	選択	2	力学	必修	2
量子力学特論	共通	選択	2	量子力学	選択	2
熱力学・統計力学	共通	選択	2	熱力学・統計力学	選択	2
放射線物理学特論	共通	選択	2	放射線物理学	必修	2
電磁気学	共通	選択	2	電磁気学	必修	2
解剖学特論	医物	選択	1	解剖学	必修	1
生理学特論	医物	選択	1	生理学	必修	1
放射線腫瘍学	医物	選択	2	放射線腫瘍学	必修	1
				腫瘍病理学	選択	1
放射線計測学特論	医物	選択	2	放射線計測学	必修	2
原子核物理学	医物	選択	2	原子核物理学	選択	2
医用画像情報学特論Ⅱ	共通	選択	2	放射線診断物理学Ⅱ	選択	1
医学物理特別研究	医物	必修	8	—	—	—
診療画像技術学臨床実習	共通	選択	2	—	—	—
核医学検査技術学臨床実習	共通	選択	2	—	—	—
放射線治療技術学臨床実習	共通	選択	2	—	—	—
医学物理総合実習	医物	選択	2	実習・演習	必修	2
				①保健物理学／放射線防護学		
				②放射線診断物理学		
				③核医学物理学		
				④放射線治療物理学		
				⑤放射線計測学		
⑥医療・画像情報工学						
先端医療施設臨床実習	共通	自由	8	—	—	—

※診療放射線学専攻博士前期課程(医学物理士コース)は、医学物理士認定機構の「医学物理教育コース」の認定を受けています。

診療放射線学専攻博士前期課程医学物理士コース 履修モデル

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態	履修年次		認定機構カリキュラム	
			必修	選択	自由		1年	2年		
共通科目	科学研究・論文技法学	1前	2			講義	○		—	—
	放射線科学特論	1前	2			講義	○		放射線生物学	必修
									放射線関連法規および勧告／医療倫理	必修
	科学英語特論	1前	2			講義	○		科学英語	選択
	医用画像基礎読影学	1後	2			講義	○		放射線診断学	必修
	医用画像情報学特論 I	1前		2		講義	○		放射線診断物理学 I	必修
									医療・画像情報学	必修
	医用機器品質管理学	1後		2		講義	○		保健物理学／放射線防護学 I	必修
									保健物理学／放射線防護学 II	選択
放射線技術学特論（治療）	2前		2		講義		○	放射線治療物理学 I	必修	
								放射線治療物理学 II	選択	
放射線技術学特論（核医学 I）	2前		2		講義		○	核医学物理学 I	必修	
								核医学物理学 II	選択	
放射線技術学特論（核医学 II）	2後		2		講義		○	核医学	必修	
専門科目	統計科学	2前		1		講義		○	統計学	必修
	物理数学	1後		1		講義	○		物理数学	選択
	数値計算	1前		2		講義	○		—	—
	力学特論	1前		2		講義	○		力学	必修
	量子力学特論	1後		2		講義		○	量子力学	選択
	熱力学・統計力学	1後		2		講義			熱力学・統計力学	選択
	放射線物理学特論	1後		2		講義	○		放射線物理学	必修
	電磁気学	1前		2		講義		○	電磁気学	必修
	解剖学特論	1前		1		講義	○		解剖学	必修
	生理学特論	1後		1		講義	○		生理学	必修
	放射線腫瘍学	1後		2		講義	○		放射線腫瘍学	必修
									腫瘍病理学	選択
	放射線計測学特論	1後		2		講義		○	放射線計測学	必修
	原子核物理学	1後		2		講義			原子核物理学	選択
	医用画像情報学特論 II	2前		2		講義			放射線診断物理学 II	選択
医学物理特別研究	1後～2通	8			演習	○	○	—	—	
専門実習科目	診療画像技術学臨床実習	1通		2		実験実習			—	—
	核医学検査技術学臨床実習	1通		2		実験実習			—	—
	放射線治療技術学臨床実習	1通		2		実験実習			—	—
	医学物理総合実習	1通		2		実験実習	○		実習・演習	必修
	先端医療施設臨床実習	2前			8	実験実習			—	—

医療系学部出身者は理工系科目を、理工系学部出身者は医療系科目をそれぞれ重点的に履修することで医学物理士認定機構ガイドラインにおける講義カリキュラム必須科目の80%の充足度を満たすこと。

(5)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	岡本孝英	医用X線画像のノイズ除去と特徴抽出に関する研究
教授	神長達郎	臨床使用における画像診断機器及びトレーサ解析手法に関する研究
教授	大谷浩樹	医用放射線の高精度線量計測および被ばく防護に関する研究
教授	古徳純一	人工知能とコンピュータビジョンによる次世代放射線治療支援システムの開発
教授	富田博信	X線CTの諸特性およびDual Energy CTの研究
教授	齋藤祐樹	診断用X線装置の特性解析および品質管理技術の開発
准教授	菱木清	診療画像技術学分野に関する研究 放射線治療分野に関する研究
准教授	太田樹	放射線の臨床応用に関する研究
准教授	小島慎也	MRI画像における深層学習を用いた画質向上およびアーチファクト低減に関する研究
講師	横塚記代	Tc-99m標識放射性医薬品の品質管理に関する検討 認知症診断における核医学検査の画像評価についての研究
講師	林達也	MRIを用いた病変の定量的解析方法の開発
講師	伊東利宗	核医学画像における画像処理、解析手法の研究



### (1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

#### \*教育目的

臨床検査学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、臨床検査をはじめ衛生、食品業務に関わる検査医学の知識、技術、研究、教育に関して高度な専門性を備え、社会で指導的役割を果たせる実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

#### \*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

臨床検査学専攻は臨床検査をはじめ衛生、食品業務に関わる検査医学の技術、知識、教育に関して高度な専門性を備え、社会で指導的役割を果たせる実践者、管理者、教育研究者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

##### 博士前期課程

1. 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、教育・研究を推進する能力がある。
2. 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての学術研究成果を理解、統合することによって、医療技術の実践・教育・研究を行うことができる。
3. 臨床検査学と医学の学際的分野において教育・研究を行うことができる。

##### 博士後期課程

1. 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、より高度で先進的な研究を推進する能力を有する。
2. 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての高度な学術研究成果を理解、統合することによって、先進的な医療技術の研究開発を指導できる。
3. 臨床検査学と医学の学際的分野において、先進的な研究を指導できる。

#### \*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、臨床検査学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

##### 博士前期課程

1. 共通科目では、臨床検査に関する専門知識をより深めるため、「生理機能検査学」、「人体システム生理学」、「研究情報処理方法」、「分子代謝生化学」を必修科目として配置する。
2. 専門科目では、研究能力をより深めるため、「臨床検査医学」と「臨床検査技術学」に分けて科目群を編成する。
3. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「臨床検査医学特別研究」および「臨床検査技術学特別研究」を配置する。

##### 博士後期課程

1. 臨床検査技術から臨床検査医学にわたる知識の統合を深め、多様な研究テーマに対応するため、「生理機能検査学特論」、「病態情報解析学特論」、「病理検査学特論」、「感染生体防御機能解析学特論」、「臨床化学検査学特論」を共通の科目として配置する。
2. 個々の研究テーマについて深く考察し、創造的な視点から実験・解析、教育等を行い、学位論文を作成するため、「臨床検査学特殊研究」を必修科目として配置する。

## (2) 授業科目一覧

## 臨床検査学専攻【博士前期課程】 2021年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
共通科目	研究倫理	1前	1			○			教授 石川ひろの 教授 福田吉治 准教授 井上まり子 助教 山田卓也 講師 (非) 中澤栄輔 講師 (非) 瀧本禎之
	生理機能検査学	1前	2			○			准教授 増山里枝子 准教授 咲間妙子 准教授 崎原ことえ
	人体システム生理学	1後	2			○			准教授 増山里枝子 教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授 藤原孝記
	研究情報処理方法	1前	1				○		教授(兼) 榎村浩一
	分子代謝生化学	1後	2			○			准教授 赤間剛 准教授 後藤真里
	小計(5科目)	—	8	0	0		—		
臨床検査医学	細胞病理検査学講義	1前		2		○			教授 望月眞 講師 宮田佳奈
	細胞病理検査学演習	2通		2			○		教授 望月眞 講師 宮田佳奈
	分子生物学講義	1後		2		○			教授 鈴木幸一 准教授 後藤真里
	分子生物学演習	2通		2			○		教授 鈴木幸一 准教授 後藤真里
	臨床病態生理学講義	1前		2		○			教授 望月眞
	臨床病態生理学演習	2通		2			○		教授 望月眞
	画像生理情報解析学講義	1後		2		○			准教授 増山里枝子 准教授 崎原ことえ
	画像生理情報解析学演習	2通		2			○		准教授 増山里枝子 准教授 崎原ことえ
	臨床検査医学特別研究	1~2通		10			○		教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授 望月眞 教授 藤原孝記 教授 大井淳 教授(兼) 榎村浩一 准教授 福田晃子 准教授 松村充 准教授 咲間妙子 准教授 増山里枝子 准教授 崎原ことえ 准教授 後藤真里 准教授 赤間剛 講師 宮田佳奈 講師 亀田貴寛
	小計(9科目)	—	0	26	0		—		
臨床検査技術学	先端血液解析学講義	1後		2		○			准教授 福田晃子 教授 藤原孝記 教授 大井淳
	先端血液解析学演習	2通		2			○		准教授 福田晃子 教授 藤原孝記 教授 大井淳
	感染制御学講義	2前		2		○			教授 後藤一雄 教授(兼) 榎村浩一
	病原体検査学講義	1後		2		○			准教授 松村充 教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授(兼) 榎村浩一
	病原体検査学演習	2通		2			○		准教授 松村充 教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授(兼) 榎村浩一
	生体防御機能解析学講義	1前		2		○			教授 鈴木幸一 教授(兼) 榎村浩一 講師 亀田貴寛
	生体防御機能解析学演習	2通		2			○		教授 鈴木幸一 教授(兼) 榎村浩一 講師 亀田貴寛
	臨床検査技術学特別研究	1~2通		10			○		教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授 望月眞 教授 藤原孝記 教授 大井淳 教授(兼) 榎村浩一 教授(兼) 加納壘 准教授 福田晃子 准教授 松村充 准教授 咲間妙子 准教授 増山里枝子 准教授 崎原ことえ 准教授 後藤真里 准教授 赤間剛 講師 宮田佳奈 講師 亀田貴寛 講師(兼) 宮下惇嗣
	小計(8科目)	—	0	24	0		—		
合計(22科目)	—	8	50	0		—			

## 修了要件及び履修方法

共通科目から必修科目8単位、専門科目から専攻分野（臨床検査医学または臨床検査技術学）の講義4単位以上、演習4単位以上および特別研究10単位、専攻分野以外の講義4単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること。

臨床検査学専攻【博士後期課程】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	生理機能検査学特論	1又は2通		2			○		准教授 増山里枝子 准教授 咲間妙子 准教授 崎原ことえ
	病態情報解析学特論	1又は2通		2			○		教授 大井淳 教授 藤原孝記 教授(兼) 槇村浩一 准教授 福田晃子
	病理検査学特論	1又は2通		2			○		教授 望月眞
	感染生体防御機能解析学特論	1又は2通		2			○		教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授(兼) 槇村浩一 准教授 松村充 講師 亀田貴寛
	臨床化学検査学特論	1又は2通		2			○		准教授 赤間剛 准教授 後藤真里
	臨床検査学特殊研究	1～3通	12				○		教授 鈴木幸一 教授 後藤一雄 教授 望月眞 教授 藤原孝記 教授 大井淳 教授(兼) 槇村浩一 教授(兼) 加納壘 准教授 福田晃子 准教授 松村充 准教授 咲間妙子 准教授 増山里枝子 准教授 崎原ことえ 准教授 後藤真里 准教授 赤間剛 講師 宮田佳奈 講師 亀田貴寛 講師(兼) 宮下惇嗣
	小計 (6科目)	—	12	10	0		—		
合計 (6科目)		—	12	10	0		—		
<p>修了要件及び履修方法</p> <p>専門科目から選択4単位以上および臨床検査学特殊研究12単位、合計16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p>									

### (3)カリキュラムマップ

#### 臨床検査学専攻【博士前期課程】

	DP1 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、教育・研究を推進する能力がある。	DP2 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての学術研究成果を理解、統合することによって、医療技術の実践・教育・研究を行うことができる。	DP3 臨床検査学と医学の学際的分野において教育・研究を行うことができる。
2年	(医) 分子生物学演習 (技) 生体防御機能解析学演習	(医) 細胞病理検査学演習 (医) 画像生理情報解析学演習 (技) 先端血液解析学演習 (技) 感染制御学講義 (技) 病原体検査学演習	(医) 臨床病態生理学演習 (医) 臨床検査医学特別研究 (技) 臨床検査技術学特別研究
1年	●研究倫理 ●人体システム生理学 ●分子代謝生化学 (医) 分子生物学講義 (技) 生体防御機能解析学講義	●生理機能検査学 (医) 細胞病理検査学講義 (医) 画像生理情報解析学講義 (技) 先端血液解析学講義 (技) 病原体検査学講義	●研究倫理 ●研究情報処理方法 (医) 臨床病態生理学講義 (医) 臨床検査医学特別研究 (技) 臨床検査技術学特別研究

●は必修科目、(医)は臨床検査医学の科目群、(技)は臨床検査技術学の科目群

臨床検査学専攻【博士後期課程】

	DP1 臨床検査の基礎となる自然科学分野の専門的知識を有し、より高度で先進的な研究を推進する能力を有する。	DP2 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査についての高度な学術研究成果を理解、統合することによって、先進的な医療技術の研究開発を指導できる。	DP3 臨床検査学と医学の学際的分野において、先進的な研究を指導できる。
3年			●臨床検査学特殊研究
2年	病態情報解析学特論	生理機能検査学特論 病理検査学特論 感染生体防御機能解析学特論 臨床化学検査学特論	●臨床検査学特殊研究
1年	病態情報解析学特論	生理機能検査学特論 病理検査学特論 感染生体防御機能解析学特論 臨床化学検査学特論	●臨床検査学特殊研究

●は必修科目

## (4)指導教員一覧

職名	氏名	研究内容
教授	後藤 一雄	動物モデルを使用した感染症の分子病理研究と、タンデムリピート多型を利用した、動物系統の安定な継代のための方法論に関する研究
教授	鈴木 幸一	感染や組織傷害による自然免疫能活性化と甲状腺自己免疫疾患の関連抗酸菌のマクロファージ内寄生と排除機構
教授	望月 眞	組織形態学を中心とした臨床病理的な疾患解析
教授	藤原 孝記	造血幹細胞移植におけるヒト組織適合性抗原の関連性 HLA・HPAに対する抗体の高感度測定法開発に関する研究
教授	大井 淳	造血器腫瘍と造血細胞移植に関する研究
教授 (兼)	榎村 浩一	院内感染発生時の原因菌同定および薬剤感受性評価法の改良と、遺伝子検査技術の応用に関する研究
准教授	福田 晃子	D-dimer迅速測定手法を用いて、血栓溶解療法施行中の心筋マーカーと線溶系指標の経時的変化に関する研究
准教授	松村 充	各種細菌に対する最小発育阻止濃度以下レベルの抗菌薬の効果の原因探索を研究課題とし、分子細胞生物学手法を用いた研究
准教授	咲間 妙子	睡眠関連運動障害と睡眠時随伴症の病態解明—電気生理学的アプローチ
准教授	増山里 枝子	静脈還流における筋ポンプと呼吸ポンプの相互作用
准教授	崎原 ことえ	非侵襲的脳波計測法（脳波など）を用いた認知機能の解明
准教授	後藤 真里	新規生理活性脂質の単離同定と活性解明
准教授	赤間 剛	インビトロ系を活用した代謝生化学上の臓器連携に関する研究
講師	宮田 佳奈	肺腺癌における脂質代謝関連因子の病理組織及び分子病理学的研究
講師	亀田 貴寛	粥状動脈硬化症に関連するリポタンパク質の量および質的評価に関する研究

## (1) 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

### \*教育目的

救急救護学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、傷病者の病態を医学的に解釈でき、その鑑別・判断能力と救急救命処置能力、高度な教育指導能力、かつ組織運営・危機管理等の実務能力を有する実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

### \*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

救急救護学専攻は、傷病者の病態を医学的に解釈でき、その鑑別・判断能力と救急救命処置能力、高度な教育指導能力、かつ組織運営・危機管理等の実務能力を有する実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 救急救護活動における高い倫理観とコミュニケーション能力など豊かな人間性を有している。
2. 救急救護に関わる質の高い科学的研究と提言ができる能力を有している。
3. 救急救護政策・行政の遂行、組織運営及び危機管理の高いマネジメント能力を有している。
4. 救急救護に関わる高度な医学・災害防災等の専門的知識・技能及び教育指導能力を有している。

### \*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、救急救護学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 救急救護領域の基盤の理解、質の高い倫理観、コミュニケーション能力を育成するため、「救急救護総論」、「救急救護倫理特論」、「コミュニケーション特論」を基礎科目として配置する。
2. 救急救護活動の理論的根拠の検討や研究方法を学ぶため、「保健統計学」、「救急救護学研究方法演習」を基礎科目として配置する。
3. 救急救護政策・行政の企画力と業務運営・危機管理能力、実務指導能力などの高いマネジメントが実践できる行政管理能力を育成するため、「救急救護総論」などの科目を基礎科目として、「救急救護政策・行政特論」などの科目を専門科目として配置する。
4. 救急救護領域の高度な医学知識・技能を修得し、医療の実務・指導能力を育成するため、「救急救護医学特論」、「災害・防災危機管理特論」、「救急救護教育指導特論」などの科目を専門科目として配置する。
5. 修士論文の作成など教育・研究および科学的思考能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「救急救護学特別研究」を配置する。

## (2) 授業科目一覧

## 救急救護学専攻【修士課程】 2021年度以降入学生

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			担当教員	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
基礎科目	研究倫理	1前	1			○			教授 石川ひろの 准教授 井上まり子 講師 (非) 中澤栄輔	教授 福田吉治 助教 山田卓也 講師 (非) 瀧本禎之
	救急救護総論	1前	2			○			教授 國府田洋明 特任教授 鈴木正之	講師 高山祐輔
	保健統計学	1前	2			○			准教授 藤崎竜一	
	救急救護学研究方法演習	1通	4				○		准教授 藤崎竜一	
	コミュニケーション特論	1後	2			○			講師(非) 橋本章子	
	救急救護倫理特論	2前	1			○			准教授 水安達也 講師 酒本瑞姫	准教授 高梨利満 講師 菊川忠臣
	地域保健学	1前		2		○			教授 高橋謙造 講師(非) 坪倉正治 講師(非) 渡辺綱市郎	教授(客) 石崎達郎 講師(非) 山本真 講師(非) 尾崎明彦
	海外救急救護体制特論	2前		2		○			教授 西森茂樹 講師 酒本瑞姫	教授 茂呂浩光 講師 高山祐輔
	小計 (8科目)	—	12	4	0		—			
専門科目	救急救護医学特論 I	1前	2			○			教授 小菅宇之	准教授 藤崎竜一
	救急救護医学特論 II	1後	2			○			教授 小菅宇之	准教授 藤崎竜一
	救急救護医学演習 I	2前		2			○		教授 小菅宇之	准教授 藤崎竜一
	救急救護医学演習 II	2後		2			○		教授 小菅宇之	准教授 藤崎竜一
	救急救護政策・行政特論	1後		2		○			教授 茂呂浩光 准教授 水安達也 特任教授 鈴木正之	教授 大滝恭弘 講師 高山祐輔
	救急救護政策・行政演習	2通		4			○		教授 大滝恭弘 准教授 大久保隆弘 特任教授 鈴木正之	准教授 小坂橋敏美 講師 高山祐輔
	災害・防災危機管理特論	1後		2		○			教授 國府田洋明 准教授 大久保隆弘	教授 大滝恭弘 講師 菊川忠臣
	災害・防災危機管理演習	2通		4			○		教授 茂呂浩光 講師 菊川忠臣	准教授 水安達也
	救急救護教育指導特論	1後		2		○			准教授 高梨利満 講師 菊川忠臣	講師 酒本瑞姫
	救急救護教育指導演習	2通		4			○		准教授 高梨利満 講師 菊川忠臣	講師 酒本瑞姫
	救急救護学特別研究	2通	6				○		教授 國府田洋明 教授 茂呂浩光 教授 大滝恭弘 准教授 藤崎竜一 准教授 高梨利満 准教授 水安達也 講師 菊川忠臣 助教 沖園義藤	教授 小菅宇之 教授 西森茂樹 准教授 小坂橋敏美 准教授 大久保隆弘 講師 酒本瑞姫 講師 高山祐輔 助教 中村鈴男 助教 吉村友一
小計 (11科目)	—	10	22	0		—				
合計 (19科目)		—	22	26	0		—			
修了要件及び履修方法										
① 基礎科目の必修12単位、専門科目の必修10単位、合計22単位を修得すること。 ② 専門科目の選択から特論2単位、演習4単位、合計6単位を修得すること。 ③ 選択から2単位以上修得すること。 ④ 上記①～③の合計30単位以上の修得に加え、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。										

(3)カリキュラムマップ

救急救護学専攻【修士課程】

	DP1 救急救護活動における高い倫理観とコミュニケーション能力など豊かな人間性を有している。	DP2 救急救護に関わる質の高い科学的研究と提言ができる能力を有している。	DP3 救急救護政策・行政の遂行、組織運営及び危機管理の高いマネジメント能力を有している。	DP4 救急救護に関わる高度な医学・災害防災等の専門的知識・技能及び教育指導能力を有している。
2年	●救急救護倫理特論	●救急救護学特別研究	海外救急救護体制特論 救急救護政策・行政演習 ●救急救護学特別研究	海外救急救護体制特論 救急救護医学演習Ⅰ 救急救護医学演習Ⅱ 災害・防災危機管理演習 救急救護教育指導演習 ●救急救護学特別研究
1年	●研究倫理 ●救急救護総論 ●コミュニケーション特論	●研究倫理 ●保健統計学 ●救急救護研究方法演習	●研究倫理 ●保健統計学 ●救急救護研究方法演習 救急救護政策・行政特論	地域保健学 ●救急救護医学特論Ⅰ ●救急救護医学特論Ⅱ 災害・防災危機管理特論 救急救護教育指導特論

●は必修科目

## (4)指導教員一覽

職名	氏名	研究内容
教授	國府田洋明	救急救護政策・行政、災害・防災危機管理
教授	小菅宇之	救急救護医学
教授	茂呂浩光	救急救護政策・行政、災害・防災危機管理
教授	西森茂樹	救急救護医学、救急救護教育指導
教授	大滝恭弘	救急救護政策・行政、災害・防災危機管理
准教授	小板橋敏美	救急救護政策・行政、救急救護教育指導
准教授	藤崎竜一	救急救護医学、救急救護教育指導
准教授	高梨利満	災害・防災危機管理、救急救護教育指導
准教授	大久保隆弘	救急救護政策・行政、救急救護教育指導
准教授	水安達也	救急救護政策・行政、救急救護教育指導
講師	酒本瑞姫	救急救護教育指導、救急看護学
講師	菊川忠臣	救急救護教育指導
講師	高山祐輔	救急救護教育指導
助教	沖園義藤	救急救護教育指導
助教	中村鈴男	救急救護教育指導
助教	吉村友一	救急救護教育指導